2023「ことばの森教室」第2回優秀作品紹介

＜中学校1年生＞　作文課題「社会に目を向けよう」

1－①　　「きっかけ」

「きっかけ」それは、どんな事にでも必ずあることだ。私達の周りには、たくさんの「出来事」がある。明るい出来事から暗い出来事まで。

最近、「自殺」という言葉を耳にする。他人事には思えない学生の自殺から、テレビなどのメディアで注目されている有名人の自殺など。ニュースなどで流れてくると、胸が苦しくなってくる。その「自殺」には必ず「きっかけ」があると思う。いじめや差別、誹謗中傷、健康状態など。色々な「きっかけ」があり、それは人それぞれだと思う。「家庭環境が」「学校や職場での人との関わりが」等、そのような理由が多いと思う。そのようなことは、私達にも解決できる場合がある。話を聴いてあげたり、気にかけてあげたり、その人のためになることはみんなで行い、支え合っていけばいいと思う。

いじめについて最近は、色々なところで対策が行われている。学校では「誰一人取り残さない」という考えを中心に、アンケートを実施していたり、一人一人を大切にするという考えを持っていたり、相談に乗れる窓口のような役割をするスクールカウンセラーを置くなど、誰もが安心して楽しく過ごせる学校を全体で目指している。

私達の身のまわりでは、たくさんの「出来事」が起きている。楽しいことも過酷なことも。どんなことでも、みんなで支えることが大切だと思う。人に「寄り添う」ことが出来るといいなと改めて感じた。

1－②　　「野球が教えてくれたこと」

今夏も猛暑の中、全国高等学校野球選手権山梨大会が開催され、決戦を繰り広げている。スタンドには、選手を応援するために来場した応援団、吹奏楽部、生徒に保護者、OB，OGと多くの人が見守る中、プレイボールのサイレンが鳴り響く。

私は、昨夏高校野球を初めて生で観戦した。回が進むにつれ、盛り上がり、会場の一体感に圧倒された。今年の夏は、姉が高校へ入学し、応援団に入部したため、私も試合があると会場へ駆けつけ、声援を送っている。

私はスタンドに立つと、思うことがある。猛暑の中での応援は、正直きついと思うが、毎回観戦したくなってしまうのは、一球一球に沢山のドラマが生み出され、観戦している人々の心を揺らすような力があるからだと思う。私もその一人で、全くルールを知らなかった私が、野球の面白さや楽しさを知ることができた。

私は、野球をテレビ観戦することが多いが、スタンドから観る試合は、テレビでは味わえないものがある。それは、ドキドキとした緊張感を直ぐに感じることができるからだと思う。みんなが一丸となって、選手達を応援することで、選手がそれに応えてくれ、ヒットやホームランに繋がり、盛り上がる。さらに、得点が入ると、みんなで肩を組み合い、喜びを分かち合いながら、歌を歌うことが私は好きだ。

あと2勝で甲子園。甲子園目指して頑張って欲しい。

1－③　　「言葉の大切さ」

「言葉は刃物なんだ。使い方を間違えると、厄介な凶器になる。」この言葉は、私が好きなアニメ、名探偵コナンの中で、主人公江戸川コナンが言っていたものだ。この言葉を聞いた時から忘れることが出来ず、

いつも心の中にあった。そして、この言葉の意味を現実のものとして感じなければならない出来事が起こった。

タレントのりゅうちぇるさんが亡くなった。自殺をしたと見られている。本人が亡くなってしまった今、本当の自殺の理由はわからないが、SNSなどでの誹謗中傷が原因ではないだろうかと、ニュースなどで言われている。私自身も実際、りゅうちぇるさんに対する誹謗中傷を目にしたことがあるが、あまりにもひどいものだった。もし、その言葉が私に向けられたものだったとしたら、とても耐えることが出来ないと思った。本当に言葉は刃物だ。とても怖いものだ。言葉ひとつで、心に深い傷を負わせてしまい、時に命までも奪ってしまうことがある。しかし逆に、言葉ひとつで誰かの心を救い、勇気づけ、生きる力を与えることもある。

誰かに向け、心の届けてしまった言葉は、どんなに消そうと思っても、決して消すことは出来ない。自分の中から簡単に発することが出来る言葉だからこそ、ひと言ひと言を大切に、よく考えながら「言葉」を使っていかなければいけないのだと思う。そして、誹謗中傷という行為が世界中から無くなる日が来ればよいと思う。

1－④　「地球温暖化による影響」

最近地球温暖化という言葉をよく聞きます。地球温暖化とは、人間の活動が活発になるに連れて「温室効果ガス」が大気中に大量に放出され、地球全体の平均気温が急激に上がり始めている現象のことです。

ぶどう園をやっている祖父達のところでも地球温暖化の影響で、収穫の時期の変動、病害の多発、果実品質の低下などが、増えているように思います。私は祖父の手伝いで、箱折りをやっていますが、去年よりも手伝う時期も早くなったり、雨の影響を受け、ぶどうにカビが増えて、収穫の量が減ってしまい、とても残念です。

地球温暖化による農業への影響は、他にもあります。水稲栽培では、気温上昇によって米粒が白濁した白未熟粒が発生し、果実栽培では着色不良が生じるなど、生育時初期の高温による高温障害の被害が多発します。また、真夏の高温によって作物の葉が焼け、光合成量減少して生育が悪くなることもあります。作物の品質や収穫の低下だけでなく、夏の暑さからのストレスにより家畜が夏バテし、乳牛では牛乳の生産量が減り、肉牛では牛肉の生産量が減ったりしています。

地球温暖化により、農作物の生産が減るだけでなく、家畜の夏バテによる影響などが増えてきているので、人々、動物、植物のために温暖化を抑えたいです。

＜中学校2年生＞

作文課題「これはいい（よかった）と思うこと（もの）

または、これは良くないと思うこと（もの）」

2－①　「チャットGPTによる作業の効率化」

最近、ニュースや新聞記事などで、「チャットGPT」という言葉を目にする。チャットGPTとは、人工知能を使ったチャットサービスで、人間の質問に対してまるで人間のように会話し、幅広い質問に対して答えることができるものである。

そんなチャットGPTだが、最近は学校で使用して良いかという考えについて賛否が分かれている。私はこれについて賛成である。なぜなら、作業を効率化させることが出来るからだ。主に時間短縮や情報収集である。通常はインターネット上で調べものをするが、情報が全てまとまっているとは限らない。そのため、調べるのに時間がかかってしまう。しかしチャットGPTは、調べたいことを質問するだけですぐに情報を得ることが出来る。また調べものをする際に、インターネット上には記載されていない情報もある。しかしチャットGPTは、多量の情報を備えているため、様々な分野にも対応して情報を伝えることが出来る。例えば、会社や学校での作文や資料作成では、限られた時間の中で様々な情報を必要とする。そこでチャットGPTを利用することにより、作業を効率化させることが出来るのである。

このようにチャットGPTを使うことによって、時間短縮や様々な情報収集が可能になるため、学校でも利用して良いと思う。より多くの人々に使われて、世界中で活躍することを期待している。

２－②　「新しい自分」

人には、良いところも良くないところもある。もちろん私にもあるが、やはり良くないところの方が多いと感じる。

最初に思い浮かぶのは、すぐネガティブになってしまうことだ。新しいことに挑戦する時、初めから「自分にはできない」「無理だ」と決めつける。その為、いつも前に進めない。また、「私なんか、いない方がいい」などと思ってしまうこともある。私はリーダーシップを取ることが苦手で、リーダー的な立場になった時、いつもみんなに迷惑をかけてしまう。

中でも一番だめだと思うことがある。それは、自分を大切にできない、ということだ。良くないところばかりで何も出来ないと何度も思ってしまい、自分を責めてしまう、そんな自分が嫌いで辛くなる。こんな自分を変えたい。

私は、すぐ暗い気持ちになり、自分が嫌になってしまう。しかし、それを変える為には、まず自分の良いところをたくさん見つけることだ。そうすることで、「こんな良いところがあるんだ」と、自信が持てるようになり、自分自身を変えることができるのではないだろうか。また、自分をほめてあげることも大切である。良くないところばかりでなく、視点を変えてみることも重要なのだ。新しい自分を見つけられるように、まずは笑顔でいたい。そして、もっと自分を好きになりたいと強く願っている。

２－③　「町を思うこと」

「あ、たばこ。」毎日道ばたで見るものといったら、たばこだろう。よくないな、と思いながらも汚くていつも拾えない私。でも、ゴミ拾いをしているボランティアがある。それを私は知っているけれど、町を思う気持ちがすごいな、としか思っていなかった。

ある日、私は偶然町のゴミ拾いのボランティアに参加することになった。最初は、ゴミを拾うだけだからいいかと思っていたけれど、実際にやってみると、暑くて辛い。自分が思っていたよりもゴミは沢山あり、こんなにゴミを捨てる人がいることを知った。特に、たばこのゴミが多くて、拾う時も「また、たばこか。」とため息ばかりついていた。でも、たばこのようにプラスチックゴミも多かった。草むらに隠れていたり、道のど真ん中に落ちていたり。隠して捨てている人もいれば、堂々と捨てる人もいる。どっちにしろ同じことで、ゴミを捨てることは良くない。私だったら途中で嫌になると思うけれど、ボランティアの人はゴミが何個落ちていても拾い続ける。それは本当にすごいことだと思った。

私は、今まで面倒臭い、汚いだけで済ませていたけれど、ボランティアに参加してみて、分かったことがある。ゴミを拾うと、自分の住む町が好きになる。沢山のゴミが入ったゴミ袋を見たり、きれいになった町を見ると、心が晴れ晴れする。そんな風に、もっと町をきれいにして、自分の住む町を好きになりた

い。

２－④　　「男性は　女性は」

最近、ジェンダー平等に関するニュースをよく目にするようになった。トランスジェンダーの職員がトイレに関わることで裁判を行うなど、話題になる内容が多い。

私が目に付けたのは、「ジェンダー平等　日本125位に後退　政治参加からの分野で格差大きく」というニュースだ。経済・教育・医療へのアクセス・政治参加の四つの分野の調査で、日本は146カ国中25位となった。昨年は116位で後退していて、過去最低だという。中でも、政治参加が順位を下げた。国会での話し合いなどを見て、女性が圧倒的に少ないことが分かる。一般的に、女性の方が仕事が出来ないと思われているのかもしれない。男女差別やLGBTの人達を認める動きは広がっているが、女性は家事と育児、男性は仕事という考え方が定着していたり、相撲や野球の試合で女性は入ってはいけないといったルールが変更されていなかったりと、まだまだ課題は多い。仕事上でも、男性の方が給料が高いと聞く。女性はただ頑張って仕事をしているだけなのに給料が下がるのには、違和感を覚える。とある会社で、新しいプロジェクトに女性が参加したところ、新たな考えが生まれたと聞いたことがある。女性は仕事が出来ないということはないのだ。

男性はこう、女性はこうと分けて考えられ、仕事内容や態度に違いが出てしまうような社会にならないことを願う。

２－⑤　　「誰もがありのままの自分でいられる世界のために」

私が良くないと考えるのは、男女差別だ。日本は世界の中でも男女格差が大きい国だ。政治界では、その差が大きく、衆議院議員の女性の割合は10パーセントしかないという。こういった差をなくすための法律も定められているらしい。しかし、世間の「政治家は男の仕事」という概念のせいか、昔とは変化があまりないようだ。

世間の男女の概念は、日常生活にもたくさんある。例えば、母は「女の子なんだから、家事の手伝いくらいしなさい」とよく私に言う。理由は「女の子だから」ということだが、もし私が男子だったら、本当に家事を手伝わなくていいのかというと、それは別の問題になるだろう。そうなるのだったら、女子も男子も関係なく家事をやらせればいいはずだ。「男は仕事、女は家事」という世間の概念のせいで、日常生活でも矛盾が起きてしまっているのだ。

そんな概念を変えられる可能性があるものは「SDGs」だ。この目標の中の一つに「ジェンダー平等を実現しよう」がある。これは、女性や女の子に対する差別をなくし、女性も男性と同じように活躍できる社会をつくるためのものだ。しかし、日本はこの目標の進捗状況がとても悪い。この目標を達成するためにも、世間の概念を変えていく必要がある。そうすれば、誰もが世間にとらわれず、ありのままの自分でいられる世界になるはずだ。いつか男女差別がなくなり、誰もが自分の思うように活躍できる世界になることを願っている。

＜中学校3年生＞

作文課題「『焼き場に立つ少年』から感じること・考えること」

３－①　　「少年からのメッセージ」

「あ、やばいかもしれない。」少年が焼き場に立つ姿を見て、言葉では表すことのできない感情が込み上げてきた。自分が戦時中に生きていたら、少年のように焼き場まで行く勇気があるだろうか。自分は弟や妹の死を受け入れることができるのだろうか。

写真を見てすぐに、少年の両親は亡くなっていて、背中の幼児は兄の背中で亡くなったことがわかった。10歳の少年にこの現実は辛く、重すぎるのではないか。もし、自分が戦時中に生きていたら、家族や兄弟を守ることはできないに等しいだろう。守ることができなかった時に、焼き場まで連れて行く勇気などない。ずっと一緒にいたいと思ってしまう。また、兄弟の死を受け入れられず、生きていけないかもしれない。そう考えると、戦時中を生きた人々は強く、自分には到底考えられない生活をしていたのだろう。そう考えると、少年は私よりずっと強く、ずっと立派だ。しかし、彼も人間であり、大切だった幸せを奪われた一人だ。戦争など二度とくり返してはならないことを、少年から考えさせられる。

衝突することもあるだろう。解決には話し合いが一番だと、少年に言われているように思えた。戦時中を生きた人々の苦しみを、私達が味わわずに生きていけるよう、自分で平和についての知識を増やしていきたい。また、二度と戦争をくり返さぬよう、核の恐ろしさを、今を生きる人全員が知る必要がある。

３－②　　「当たり前」

私達が知っている戦争で起こった出来事はごく一部でしかないと、この写真を見て思った。

第2次世界大戦は、多くの人の命を奪った悲惨なものだったと授業で学んだ。人が人ではなくなるのが戦争の怖いところだと思う。二度とあってはならないものだ。戦争を学ぶ機会があるたびに心が痛んだ。一方で、「昔のことだから」と、どこか他人事として考えている自分がいた。しかし、今回の写真を見た時、他人事とは思えなかった。

「焼き場に立つ少年」の写真を初めて見た時、この少年はすごいと思った。家を焼かれ、食べるものもなく家族を失ったという事実から目を逸らさず、強い意志を持って、焼き場に立っている彼の姿は、10歳には見えなかった。この少年のように、当たり前だと思っていた毎日を奪われた時、私は泣き続けるだろう。沢山の幸せが一瞬で消える瞬間、きっとその場から逃げ出してしまう気がした。本当ならばこの少年も泣きたかったと思うし、逃げ出したかったと思う。それでも必死に立っている姿は、今日の若者よりもはるかに心が大人なのだと思った。

私達が当たり前だと思っている毎日は、当たり前じゃない。この写真を見て、改めて感じることができた。この少年のような辛い思いをする人がいない、当たり前が当たり前の世界になることを祈る。

３－③　　「戦争の記憶」

「え。」ジョー・オダネルの文章を読んで、衝撃を受けました。少年が何のために焼き場に訪れたのか、第一印象からは読み取ることができませんでした。さらに、少年の感情も。何かをこらえているようにも、何も考えられないようにも見えました。

初めに抱いた印象は、何かをこらえながら、眠る幼子をおぶっている少年でした。または、大切な人の火葬に立ち会う少年。しかしこの少年は、弟や妹をおんぶしたまま原っぱで遊ぶ子どもとは、様子ははっきりと違っており、重大な目的を持ってやって来たと感じられました。しかも裸足で。白いマスクの男たちが、ゆっくりとおんぶヒモを解き始めた時に、ジョー・オダネルは、背中の幼子は既に死んでいることに、初めて気がついたと記してありました。この文章で、やっと少年がどんな状況に立たされているかの理解ができました。また、この時の少年は、何も考えられず、そこに立ちつくしていたのだとも思います。大

切な人を焼き場に連れていかなければならない辛さ、苦しさ、絶望感。このような感情を味わわせることは、二度とあってはならないと思いました。

この作文を通して、今自分がどれだけ平和な世界に生きているのかが、改めて感じられました。少年の立場だったら、感情が溢れて涙が止まらないと思います。戦時中の世界を忘れず、今の平和な生活に感謝して、これからも生活していきたいです。

３－④　「当たり前の日常とは」

1945年7月6日深夜、甲府市を中心とした都市で空襲があったとのニュースを見た。この空襲での死者は、
740名、重軽傷者は1248名、行方不明者35名、被害戸数は10894戸であった。それを見て、いつもよく遊びに行く甲府で、そのようなことがあったのかとすごい衝撃を受けた。空襲のあった当時では考えられないほど、現在の甲府は整備されているからだ。場所は同じでも、時代が違っても、私や様々な人の運命を左右させるのだと痛感した。

同年、報道写真家であるジョー・オダネルの「焼き場に立つ少年」という写真が撮影された。この写真は、10歳くらいの少年が、おんぶひもをたすきにかけて幼子を背中に背負っている写真だ。彼は裸足で立ちつくしていて、背中の幼子は眠っているように、首を後ろにのけぞらしている。最初に写真を見た時はそう思った。しかし、実際は背中にいる幼子は、亡くなっていたのだ。10歳ぐらいの少年は、一人でその現実と向き合っているのだなと思い、とても言葉に言い表せないほどの思いがこみ上げてきた。私の姉と弟の歳の差と同じくらいだから、もし時代が違っていたら、姉と弟が同じ状況にあったかもしれない。

私達の生きている現代でも、今も尚戦争は続いている。当たり前のことなどはないから、今の日常をとても尊いことだと感じる。だから、毎日を大切に生きていきたい。

３－⑤　「平和と戦争の共存」

平和の意味は「戦争などがなく、世の中がよく治まっていること」らしい。つまり平和な世界に戦争はない。平和と戦争は共存しない。この写真の少年は、平和とは真逆の世界で生きていた。

10歳の頃、何をしていただろうか。友達と小学校で遊んだり、夏休みに家族と旅行に行ったり・・・。楽しい小学生時代が思い出させる。だが、この少年は、焼き場にたった一人で来ていた。一人で来ているということは、きっと親もいないのだろうと予想がつく。さらに、背負っている幼子、何と言ったらいいのか、言葉を失う。10歳の自分にできたか。いや、できない。即答してしまうが、できるできないではなく、やるしかなかったのだ。一人で生きていくしかない。そう言う決意を感じる表情だ。

戦争の写真を見るたびに、「今の時代に生きていたら」と思う。もっと楽をさせてあげたい。もっと美味しい物を食べさせてやりたい。友達になって、一緒に遊んであげたい。それが叶わないと分かるたびに胸がズキッと痛む。

書いていて、ふと思った。「今の時代」は本当にいいものだろうか。ロシアとウクライナの戦争や世界各地の紛争。平和と戦争は共存しない。今でも世界は平和でない。全ての人類が、笑顔でいきいきと過ごせている訳ではない。今の世界を見て、この少年は何を思うのか。